

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立五日市小学校	校長氏名	高田 伸	生徒指導主事氏名	高尾 徹
-----	------------	------	------	----------	------

取組事例名 『児童集会～ウォークラリー～』

取組のねらい『異学年交流』

- ・ 縦割り班活動を通して、異学年の交流を深め、楽しく活動できるようにする。
- ・ グループで協力して問題を解決することで、よりよい人間関係を形成する。

取組の具体的内容『全員参加』

- ・ 代表委員会で、計画委員から提案される内容を踏まえ、各クラスで問題づくりを行い、後日画用紙に書いた問題を集め問題の重複がないか計画委員会で調整する。
(例) イントロ当てクイズ、ブラックボックス、○×クイズ、まちがいはどこだ、豆つまみ、ペットボトルボーリング、みんなでそろってレッツゴー、シルエットクイズ、連続勝利ジャンケン
- ・ 1分程度の間全員参加できる活動内容にする。
- ・ 60グループで25か所のポイントを回り、クイズに答えたり、指示を聞いたりする。合格したらポイントにいる先生にカードへ判を押してもらい、決められた言葉を書いてもらう。25文字にどんな意味が隠されているかグループで協力して考える。
- ・ 各グループのスタートのポイントをあらかじめ決めておき、混乱を避ける。
- ・ 縦割りグループ内の学年の問題の時は、その学年がカードを渡し、言葉を書いてもらい、参加感を味わわせる。
- ・ 自分たちのクラスには、必ず立ち寄るようにする。
- ・ グループ全員で行動するルールが守られているか、問題を出す前にそろっているか各教室で確認する。
- ・ 6年生は1年生と手をつなぐ。
- ・ 室内歩行のマナーを守る。
- ・ 待っている間に教室をのぞいて問題を見たり、他のグループに答えを教えたりしない。
- ・ グループからはぐれたら「出会いの広場」で落ち合う。
- ・ グループ全員がそろっているかリーダーは確認しながら移動するようにする。
- ・ グループから離れるような勝手な行動をしない。

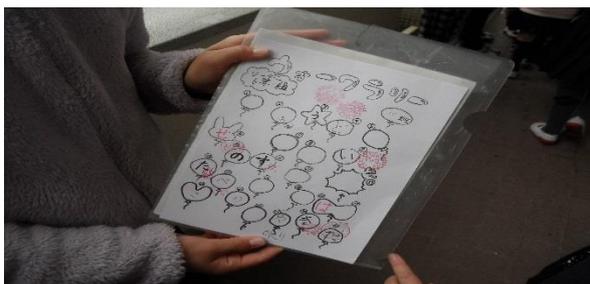


取組の課題・創意工夫『リーダーシップ、フォロアーシップの育成』

- ・ たてわり朝会、たてわり集会を年間活動計画に位置づけ、児童に見通しを持たせるとともに、児童相互の関わりやつながりを生かした児童活動として支援する。
- ・ 児童朝会や児童集会などで、1年生から6年生までの児童がいっしょに遊んだり、活動したりすることにより、思いやりの心や態度を育てる。
- ・ 6年生は、下学年の世話をしたり、リーダーとしての役割を果たしたりすることを通して最高学年としての自覚を持たせる。
- ・ 60グループに担当教員を決め、朝会、集会ごとの6年生の企画の相談・評価を行う。
- ・ 縦割りグループ活動により、「誰の」「何を」育てるために「どのように」支援をしていくのか、ねらいを明確に持ち、振り返り、評価に生かしていくようにする必要がある。

取組の成果（効果）『リーダーシップの育み』

- ・ 「できたことは、縦割り班で計画したことをスムーズに進めることができたことです。ポイントの半分くらいしか回れませんでした。1年生の手を引いてあわてず歩きました。グループで協力してポイントをクリアし、みんなが笑顔で楽しく過ごすことができました。」＜6年生児童の感想＞
- ・ 1グループ15名程度の中に2名のリーダーが活動している。これまで5～6回のたてわり朝会を重ねてきた。下学年の世話をすることを通して、下学年から慕われ、頼りにされることでリーダーシップが着実に育っていくように思われる。



今後の展開『卒業おめでとう集会にむけて』

- ・ 1月のたてわり朝会では、3回目の自由遊びに向けたグループ活動を行う。
- ・ 2月末、「卒業おめでとう集会」では、9月末に続き、1～5年生が6年生にむけてお礼の手紙を書くことにしている。年間を通して活動してきたリーダーに対して、下学年が感謝の気持ちを手紙に託す。
6年生は下学年からの手紙を受け取り、これまでの振り返りを行い、最高学年としての自覚をさらに高めていく。

他校へのアドバイス『主目的は何か』

- ・ 他者から認められ、他者の役に立っているという児童の「自己有用感」を育みたいとの思いで異年齢交流を行っている。5年生と近隣幼稚園・保育園の年長組、1、2年生と年長組との交流等、校内のみならず幼・保・小連携推進計画にも位置づけて取組を行ってきた。「何をした（させた）のか」のみならず「何を」育てるために取組を行ったか。交流のみが主目的になってはいないか常に振り返りを行う必要がある。
- ・ 縦割りグループ編成の際に、配慮を要する児童については職員間で情報を共有し、担当教員、リーダーを決める際の参考にするようにする。